

○議長（川崎和夫君） 4番 森 弘秋君。

○4番（森 弘秋君） 森です。先日県の中央植物園に、「蘭まつり」に行ってきました。正面に置いてあります県知事賞を受賞したランには驚きました。大輪の花であります。どうしてこんなに育てるんだらうか。世話のたまものであったらうと痛感いたしました。ついさわってみたくなったんですが、触れないでくださいと書いてあります。

富山県蘭協会賞をはじめ、いろんな賞がありました。富山市長賞をはじめ、各市長賞がありました。それでは、町長・村長賞がないのだらうか。ないのです。係員に聞き、賞の一覧表をもらい、よく見ると、町村会長賞が1個ありました。洋ランの部類の賞です。選考には、金森村長も苦労したのだらうと思いました。年月をかけて育てたランです。

それでは、通告してあります舟橋村の中長期ビジョンについてどう考えておられるかです。

新聞報道によりますと、ことしは富山の魅力を発信するチャンスが多い年になりそう。富山米の新品種「富富富」がデビューする。全国の消費者の心と舌をつかんでほしいとありました。富富富をはじめとし、観光面でもまた、体験型見学会、県民参加のシンポジウムなど。小さなことでも構わない。一帯の魅力を高めるために工夫を重ね、富山の魅力のアピールに力を注ぎたいと報道されていました。

そこで、我が舟橋村においても、舟橋村の魅力をアピールするときではないのか。村長の言われる身の丈に合った行政を進めたいことは理解できます。しかし、これからは少しだけ背伸びをして、日本一面積の小さい舟橋村を全国に宣伝されてはいかがでしょう。幸い村長は、全国町村会の副会長をしておられます。

私もこれまで、村の宣伝看板の設置。京坪川の、河川公園の中間に橋をかける。あるいは、奇想天外の発想としてホテルの誘致もあってもよいのではないか。また、京坪川河川公園・駅前公園、両公園の連携行事等々についてもアイデアを出しました。さらに、幾度となく、機会あるごとに村の未来について提案をしたと思っています。

ところで、村長は提案理由説明でも、京坪川河川公園、認定こども園、賃貸住宅から構成する「モデルエリア」整備事業が着々と進んでおり、公園や、認定こども園等の連携により、子育てが安心してできる環境の整備、舟橋村でならもう一人子どもを産みたいという安心感を芽生えさせ、入居者自身がコミュニティづくりに携わる一員となり、将来にわたるまちづくりの担い手となる人材が育成されることから、「地域が地域を

つくる」、基本的な地域コミュニティの循環体制の構築をすることが本旨とっておられます。

京坪川河川公園の整備が終わり、3月24日には幼保連携の「ふなはしこども園」が竣工を迎え、4月から開園されます。同時に学童保育室についても移転し、子育て支援センターが移設され、ますます充実し、村民にとって利用しやすくなります。子育て共助のまちづくりの事業も完成に近くなりました。

役場前の駐車場の拡張についても以前質問をしてまいりましたが、呼応しているかどうかはわかりませんが、各エリア別に駐車場が整備され、子育て支援センターが役場から移設されれば、役場前の駐車場にもゆとりができてまいります。

京坪川河川公園の両サイドの橋の間に橋をかければ交通にも便利であり、利用者も増え、ひいては舟橋のシンボルとなるのではないだろうか。こんな提案もしてまいりました。これについては、住民の中にも、なぜ両サイドの橋の間に橋がないのか。間隔が長過ぎる。必要ではないだろうか。このような要望も聞いております。

また、人口増については、舟橋地区で30戸のグランディール団地も整備され、順当に住宅が立ち並び、入居者も順調に増加していくと思われまます。さらに、30年度には子育て支援住宅の整備も始まり、31年度に完成の予定であり、人口3,600人に向かって着実に進んでいるところであります。

村長は、創意工夫に基づいた地域づくり、これに尽きる。地方の繁栄なくして国の繁栄なしとも言っておられます。例えば、まさに、過日、富山ビジネス専門学校が高岡市の高岡おとぎの森で挙行された結婚式のごとくです。舟橋村の会社員の夫婦が結婚式をされました。まさに創意工夫のごとくと考えます。

また、12月議会では、安心・安全に係る通学路等、必要箇所の安全対策及び整備についてお願いしました。これについても、着実に進んでいくと期待しております。地域住民の要望であります。

それでは、次にどんな秘策を打って出るか。振り返ってばかりでは、いかななものでしょうか。10年、20年先を見据えた構想が大切であります。

話は飛びますが、北陸経済連合会の久和会長は、「北陸近未来ビジョン」を、仮称ですが、委員会で作成する。20年、30年後に社会を担う学生ら、若者の意見を取り入れたり、有識者の見解を聞いたりすることも視野に入れ準備を進める。また、連合会が50周年を迎え、次の50周年に向けたスタートの年となる。これまでは新幹

線などインフラに力を入れてきたが、その後の展望を考えていかねばならないと言っておられます。

我が舟橋村においては、平成23年に策定された第4次舟橋村総合計画の基本計画は、1、協働でともに進めるまちづくり、2、安心して健康に暮らせるまちづくり、3、子どもを産み育てやすいまちづくり、4、安全に暮らせるまちづくり、5、自然と共生した快適なまちづくり、6、活力あふれるまちづくりを目標にしております。道半ばではありますが、基本方針に基づき着実に進められております。

第4次舟橋村総合計画は、平成23年の3月に策定され、7年が経過しようとしております。平成28年度から始まる後期計画において、見直しを行うと書いてあります。

時代は日進月歩です。進化のサイクルが早い時代です。平成32年度を待たずに、第4次舟橋村総合計画と、村長がこれから考えられる中長期ビジョンを重ね合わせ、次の10年、20年を見据える必要があると考えます。

一つの考えとして、次の事業、次の方向、舟橋村はどこに進むのか。例えば、本年9月議会で提案されましたが、富山広域連携中枢都市圏における広域連携ではないのだろうか。圏域は、経済成長の牽引、高次の都市機能の集積・強化、生活関連機能のサービスの向上を図り、少子高齢化社会にあっても一定の圏域人口を有し、活力ある社会経済を維持することを目的としております。

舟橋村においても、これまでの市町村同士の結びつきをより発展させ、富山市のベッドタウンとしての機能を持たせる。今でもそうではありますが、もっと企業誘致を図ることも考え、中核都市「富山市」の衛星都市、いわゆる中核市と社会・経済的に密接な関係を持ち、工業、学園、住宅など都市の機能を持つ衛星都市「舟橋村」のことも考えられるのではないだろうかなど、いろんな視点から舟橋村の中長期ビジョンを策定されてはいかがでしょうか。

村長の得意とされる、総合計画の基本目標であります「子どもを産み育てやすいまちづくり」「安心して暮らせるまちづくり」「活力あふれるまちづくり」等を目指している舟橋村であります。「命かがやく 笑顔あふれる」、住みよさ日本一を目指す舟橋村です。小さなことからでもよいのです。ともに頑張りたいと思っております。

さて、最後に、総合計画の基本目標の達成のため、村民の血税を村民に見える形で有効に使い、村政の方向性を見出し、いろんな角度から、次代の村がどうあるべきか。日本一面積の小さい舟橋村を、地方創生、創意工夫に基づく魅力ある村の発展、村政の方

向性、村民にどのように説明し、村民をどのように導くのか。そして、次代を築く子どもたちが夢を持てる中長期的な舟橋村のビジョンを示し、語っていただきたいと思います。

終わります。

○議長（川崎和夫君） 村長 金森勝雄君。

○村長（金森勝雄君） 4番森議員の舟橋村の中長期ビジョンについてのご質問にお答えいたします。

議員もご存じのとおり、自治体が策定いたします計画で最上位にランクづけされるのは総合計画であり、本村の全ての事業はこの総合計画に位置づけられているものであります。現在本村では、平成23年3月に、平成32年度までに至る10年間のまちづくりの指針を示す第4次舟橋村総合計画を策定し、舟橋村の将来像であります「命かかがやく 笑顔あふれる しあわせいっぱい ふなはし」の具現化に向けまして、事業を進めているところであります。

また、本村には、平成25年3月策定の舟橋村健康構想、平成26年3月策定の舟橋村環境総合整備計画や平成27年10月に策定いたしました舟橋村総合戦略があります。それぞれの計画は、総合計画に位置づけられる施策を展開している中から集中的に取り組んでいく基本方針を示したものであります。

これらの計画では、年次計画に基づいて事業を進めておりますが、今後のまちづくりビジョンづくりに当たっては、既に実施した事業検証をはじめとする事業の選択と集中化を図ることによりまして、さらなる舟橋村の魅力を生み出していくことが最も大切であると考えております。

そのためにも、大別した3つの事業を集中的に推進してまいります。

1つは、総合戦略に掲げる「子育て共助のまちづくり」の具現化であります。

子育て世代の安定的な流入は本村が持続可能となります生命線であり、本事業の成功なくして、本村の発展はないものと思っております。現在実施しております「地域共助によるもう1人子どもが産みたくなる住宅導入加速化戦略」「住民協働による子育てに優しいパークマネジメント戦略」「ICT活用による子育てコミュニティづくり社会実験戦略」「子育て支援サポーター・リーダー育成戦略」及び「ローカル企業の自走・自立化支援戦略」の5つのプロジェクト事業を着実に進めることで、子育てしやすい環境を整備いたしまして、子育て世代の人口流入と出生率向上の具現化に向けて誠心誠意努

めてまいります。

2つ目には、「教育の村 ふなはし」の実現であります。

村内には、認定こども園、小中学校がそれぞれ1施設という特徴を生かし、舟橋村だからこそ可能で実践できる育てと学びの環境をさらに整えてまいります。

具体的な取り組みといたしまして、語学の学び支援を拡充させます。こども園から中学校まで一貫した英語教育をさらに推進することに加え、対象範囲を大人まで拡大することで、語学の壁、世代の壁のない舟橋村を目指してまいります。

現在保育園で実施している英会話教室に加え、30年度から本村単独でALT1名を採用し、小中学校の英語教育の充実を図ることに合わせ、舟橋会館や舟橋村立図書館で大人を対象に英会話教室を開催しまして、本村の新たな魅力を創出してまいります。

3つ目は、農業の成長産業化であります。

今、農業は大きな転換期を迎えております。昭和46年から本格的に開始されました米の生産調整制度も29年度産米をもって廃止になり、農業を取り巻く環境は今後一層厳しくなることが予測されております。

しかし、議員もご指摘のとおり、本村の基幹産業は農業であります。農業の振興なくして舟橋村の発展はないものと考えられることであります。この国の政策転換期をビッグチャンスと捉えまして、本村においては平成30年度を「農業改革元年」といたしまして、農業を成長産業へと位置づけし、農事組合法人等の経営を積極的に支援する施策を展開してまいります。

具体的には、30年度中に策定いたします「舟橋村農業振興計画」に合わせまして、水田フル活用を基本とした施設整備支援、特産品研究開発支援及び若手農業経営者研修支援を拡充することで、農業経営者の自走自立化を図ってまいります。

いずれにいたしましても、さきに述べました3つの事業を着実に取り組むことで、村民の皆さんに住んでよかったと受けとめられるだけの魅力と活力に満ちた村づくりに努めてまいりますので、議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げまして、答弁とさせていただきます。

○議長（川崎和夫君） 森 弘秋君。

○4番（森 弘秋君） 今ほど、答弁ありがとうございました。

中長期を、未来を語るというのは一種の哲学の世界ですから、1足す1は2というふうに簡単にいかんと思いますが、先ほどいろんな議員からも質問がありましたように、

健康をはじめとして安心・安全な、かつ、先ほど言いましたように、子どもたちが夢を持てるビジョンをこれから持っていただきたいというふうに思います。

よろしく申し上げます。